

佳作

すべては笑顔のために

群馬県 前橋市立南橋中学校二年 正田 あかり

光り輝く照明が消え、一筋のスポットライトがステージに現れる。その中にいる私は、ゆっくりと客席に目を向け、高なる胸を抑える。動きを間違えないだろうか。音程をはずさないだろうか。今になってどっと不安が押し寄せてくる。でも、今日の舞台のためにした数え切れない練習のことを思うと、少し自信が持てた。そう、すべてはこの日のために。すべては皆の笑顔のために。

私は小学三年生からミュージカルを習い始め、今年で六年目になる。小さい頃から歌うことが大好きな私は、今でもミュージカルが楽しくて仕方がない。しかし、昨年の演目で主役を任された時、私は自分がしていることに自信が持てないでいた。

今までに幾度となく舞台を経験してきた私だが、昨年の演目は特別だった。私がミュージカルを始め

たいと思えたきっかけの作品で、初の大きな役を任

されたのだ。オーディションを終えた後の練習で、

自分の名前が主役として呼ばれた時、信じられない

という驚きと、飛び上がりそうなくらいの嬉しさが

同時に胸にこみ上げてきたのを今でも鮮明に覚えて

いる。そして何より、主役を選んでくださった先生

が自分に期待してくれているということが誇らしか

った。それからというものの、主役という責任を胸に、

毎日のように練習を重ねた。しかし、どんなに発声

練習をしてもどんなにダンスの振りを家で自主練習

をしても、うまくいかないことの方がうまいくこ

とよりずっと多かった。私はだんだんと練習するこ

とが馬鹿らしく思えてきて、毎日欠かさずやってい

た家での自主練習をいつしかやめてしまっていた。

どうして私はミュージカルをしているのだろう。も

う主役なんかやりたくない。他の誰かに代わっても

らいたい。このような気持ちは毎週の練習で、先生

に伝わっていたのかもしれないと今となって思う。

ある日先生が私にこんな言葉を投げかけた。

「ミュージカルをする上で、一番大切な事って何だ

と思う？本番で失敗するかしないか？それとも主

役か脇役か？私はそうじゃないと思う。一番大切

なのは観ているお客様に楽しんでもらいたい、笑顔にしたいたいと思える、気持ちじゃないかな。」

私はこの言葉を聞いた瞬間、波に打たれたような大きな衝撃を受けた。私はミュージカルをしている意味が分からなかったのではなく、それをうまくいかないことへの言い訳にしていただけなのだ。先生の言葉はずっとうまらなかったパズルの最後のピースのように私の心にすんなりと入ってきて、成長させてくれたのだ。

舞台公演最終日の練習の後、先生から

「たくさん練習したんだね。笑顔にしたいという気持ち

持ちがすごく伝わってきたよ。」

という言葉をもたらした。とても苦しく辛いこともあったけれど、頑張って良かったと思えた瞬間だった。ミュージカルを通して成長したその全過程が私にとっての感動体験だと心から言える。